

イタリアの小都市シエナ

コントラーダ



元気の素は町内会



▲ ユネスコの世界遺産になっているシエナの街並み。中央にカンポ広場が見える



定しているの10頭をくじでコントラーダ

馬はレースごとに候補を
集め選択するが、必ずしも
良い馬ばかりを選ばなくて
はならない。なぜならば選んだ
ラダーは独自の教会、集会
場、博物館、カフェなど不動

て現職。専門は計量経済学。
（おおばやし・まもる） 専修大学商学部教授、
国際交流センター長。カナダのブリティッシュコ
ロンビア大学経済学大学院博士課程単位取得満期
退学。財団法人国民経済研究協会研究員などを経

1998、99年、国立シエナ大学に客員教授として滞在した。生活に慣れるうちに、研究目的である産業集積現象を可能にしている地域社会の仕組みにも興味を持つようになった。シエナのコントラーダ（町内会）が、中世から続くパリオと呼ばれる競馬を中心とする年間行事に絡めたさまざまなコミュニティ活動を通じて、市民生活全般をサポートしていることに感銘を受けた。

日本では、持続可能な都市としてパリオを紹介し、コン

世紀にもわたって「元気」に持続していることが興味深い。以下では、シエナ、そのため、商工業や金融業が発達した。フィレンツェとは

供であり、帰属意識の助長と民衆の不満のガス抜きに効果があった。個人競技は次第に貴族支配下のコントラーダ同士の競技に変化し、縦長の絹の布であるパリオを賞品とし、競馬自体もパリオと呼ぶ催しに収れ

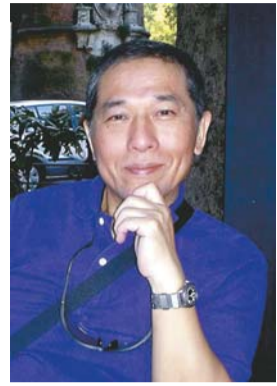
パリオは年に2回、7月の2日の聖母訪問祈念と8月15日の聖母被昇天祈念に行われる。競馬自体は数分で終わる。競馬自体は数分で終わる。観客は光物となっており、巨額の観光収入を獲得しているのも事実であるが、パリオは市民

による市民のための通年行事の一部であることを強調しておきたい。パリオは非常に複雑で、全8章105条の条例が規定しているの

に割り当てるため、駄馬を混ぜておけば負ける可能性が高いコントラーダを作る。馬が決まってから各コントラーダの権謀術数がはじまる。早い馬に当たった場合は優秀な騎手を探す。そうでない馬に当たった場合は、狡猾な騎手を選んで他の妨害を計画したり、出場している味方のコントラーダの方が有利なら協力した

めをしているほどである。パリオ翌日から、勝者たちは老若男女の区別なく、おしゃぶりを首からぶら下げて歩いている。これは勝者が生まれ変わったことへの象徴である。日本では還暦に再生を祝うが、シエナではパリオの勝者が再生を祝うことができるわけである。コントラーダを基本にパリオを機会として、常に再スタートを期して準備していることにより、6万人弱という小都市を維持し、停

滞させない仕組みが、2章「コミュニティ・ビジネス」を参照されたい。



商学部教授 大林 守

商工業や金融業を基盤に、数百年にわたって都市として発展を維持してきたイタリア・トスカナ州の古都シエナ。その秘密は、住民自治組織であるコントラーダにある。現在もシエナにしっかりと根付いているコントラーダの相互扶助の仕組みを、大林守商学部教授に寄稿していただいた。

トラダを基本としたシエナの仕組みを紹介しよう。シエナは中央イタリアのトスカナ州にあり、ルネサンスで有名なフィレンツェの南68キロに位置する人口6万人に満たない小都市である。三つの丘に城塞をめぐらせた街全体がユネスコの世界遺産となっている。中心にはパリオのコースとなるカンポ広場の9枚の三

角形はこの共和制を象徴している。次第に、ヨーロッパの覇権争いの影響で共和制は衰退し、貴族支配に移行する。貴族による統治の維持方法は、ローマ時代のコロッセオ（闘技場）に代表される民衆への娯楽の提



▲ 絵に描かれたパリオの「フィナーレ」、競馬=1998年7月



▲ コントラーダの料理本の表紙には町内道路での食事会の様子が...

「競馬」中心の年間行事通じ 各組織が「絆」を維持 権謀術数も共同体意識深める

「競馬」中心の年間行事通じ 各組織が「絆」を維持 権謀術数も共同体意識深める

で詳述できない。パリオ当日は、まずコントラーダ対抗のさまざまな歴史パレードが競われ、競馬はフィナーレをかざる。各レースに参加できるのは、シエナ城内の17コントラーダから条例の決まりにより選ばれた10コントラーダである。相撲の仕切りのような「らしいあい」がスタート前に行われ、カンポ広場のいびつで傾斜のある外周に土を敷いたコースを3周後に、騎手が落馬しても馬の頭につけたコントラーダのシンボルマークを落とさずにゴールを切った「馬」が優勝となる。競技前の収賄「スター」直前の騎手同士の談合、競走中のムチによる殴り合いや妨害が公然と認められている珍しい競馬である。あつし、治安もよく、外国人のための国立外国人大学がある開かれた国際都市である。そもそも、コントラーダは独自の教会、集会場、博物館、カフェなど不動

このように考えると、「場」の議論に行き着く。場とは、濃密な交流の深化が、文化、情報、規範、信頼性、安心感、緊張感といったものの共有を促す状況の象徴である。日本では還暦に再生を祝うが、シエナではパリオの勝者が再生を祝うことができるわけである。コントラーダを基本にパリオを機会として、常に再スタートを期して準備していることにより、6万人弱という小都市を維持し、停

滞させない仕組みが、2章「コミュニティ・ビジネス」を参照されたい。